

かしま 議会だより



第96号

平成31年3月議会号

令和元年5月発行

発行／鹿島市議会 編集／議会だより編集委員会
〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1 TEL63-2104 FAX63-2314

ありがとう市民会館



昭和41年に完成した鹿島市民会館・平成31年3月31日、53年の長い歴史に幕を降ろしました。

3月定例会	P2～P3
議案審議	P4
一般質問	P5～P8
反対討論・賛成討論	P8
委員会報告	P9～P11
広域連合議会報告	P11
議会あれこれ・編集後記	P12



平成31年 鹿島市議会
3月定例会会期日程

1、会期
自 平成31年2月20日
至 平成31年3月22日

2、日程
20日開会
会議録署名議員の指名
会期の決定
議案の括上げ
議案の提出理由説明
(市長の提案理由説明)
21日 休会(議案研究)
・発言内容通告締切
22日 休会(議案研究)
23日 休会
24日 休会
25日 休会(議案研究)
26日 議案審議、質疑、
討論、採決
27日 休会(議案整理)
28日 総務建設環境委員会
(議案)

【3月】
1日 休会(議案整理)
2日 休会
3日 休会
4日 新年度予算審査特別
委員会(現地調査)
5日 新年度予算審査特別
委員会
6日 休会(議案整理)
7日 新年度予算審査特別
委員会

8日 新年度予算審査特別
委員会
9日 休会
10日 休会
11日 新年度予算審査特別
委員会
12日 新年度予算審査特別
委員会
13日 休会(議案整理)
14日 一般質問(2名)
15日 一般質問(2名)
16日 休会
17日 休会
18日 一般質問(2名)
19日 休会(議案整理)
20日 休会(議案整理)
21日 休会
22日 委員会審査報告
議案審議、質疑、討論
採決
閉会

次のことを審議し決定しました

【3月定例会】

議案番号	議案内容	杉原元博	片淵清次郎	樋口作二	中村和典	松田義太	稲富雅和	勝屋弘貞	伊東茂	松本末治	光武学	徳村博紀	福井正	松尾征子	角田一美	松尾勝利	議長	採決結果
議案第1号	平成31年度鹿島市一般会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長	賛成多数 可決
議案第2号	平成31年度鹿島市公共下水道事業特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第3号	平成31年度鹿島市国民健康保険特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第4号	平成31年度鹿島市後期高齢者医療特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第5号	平成31年度鹿島市給与管理特別会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第6号	平成31年度鹿島市水道事業会計予算について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第7号	鹿島市職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第8号	鹿島市民会館条例を廃止する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第9号	鹿島市公告式条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第10号	鹿島市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第11号	鹿島市職員の自己啓発等休業に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第12号	鹿島市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第13号	市長及び副市長の諸給与条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第14号	教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第15号	鹿島市議会議員の議員報酬並びに費用弁償等支給条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第16号	鹿島市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第17号	鹿島市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第18号	平成30年度鹿島市一般会計補正予算(第5号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第19号	平成30年度鹿島市公共下水道事業特別会計補正予算(第4号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第20号	平成30年度鹿島市谷田工場団地造成・分譲事業特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第21号	平成30年度鹿島市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第22号	平成30年度鹿島市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第23号	平成30年度鹿島市給与管理特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第24号	平成30年度鹿島市一般会計補正予算(第6号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第25号	平成31年度鹿島市一般会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	同上	賛成多数 可決
議案第26号	鹿島市中村住宅整備事業の事業契約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議案第27号	鹿島市副市長の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 同意
議案第28号~第30号	鹿島市農業委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	退	同上	賛成多数 同意
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 適任
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 適任
議員提案第1号	鹿島市議会基本条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決
議員提案第2号	鹿島市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同上	賛成多数 可決

○…賛成 ×…反対 退…退席 欠…欠席 ※…(監査委員のため審議に参加できない)

議案審議

議案審議

議案第10号

鹿島市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について



片瀧 清次郎 議員
民間業界の中には、

一ヶ月の残業が百時間を超えたら労働基準監督署への届出、三ヶ月を超えたら医師の健康診断受診、業務改善計画の提出を求められる等厳しい監査が行われたりするが、鹿島

市は職員の残業時間に対して労働基準監督署のよくなチェック体制はあるのか。

答弁 鹿島市は地方公共団体で労働基準監督署の適用はない。地方公務員法に則り職員の勤務を運営、管理している。残業が百時間を超える職員については総務課で健康管理に努めている。

議案第17号

鹿島市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について



勝屋 弘貞 議員

質問 子育て支援における段階的な医療費負担軽減は評価するが、現在の保護者負担総額は。

また、通院時における負担は安易な利用抑制につながると思うところだが、次のステップとして、入院時の負担軽減が考えられる。入院は医師の判断によるもので、あって入院のため病院に連れてくることはないと思うが、その数は。

答弁 29年度実績の試算で約2490万円、その他で約9840万円、計約1億2000万円が中学生以下の医療費額となる。入院は月額1000円×490件の49万円だ。

議案第25号

平成31年度鹿島市一般会計補正予算(第一号)について



松尾 征子 議員
プレミアム商品券について

質問 プレミアム商品券発行の事業は、説明では消費税による影響を緩和

するためということだがどのくらいの市民に影響するのか。

答弁 非課税世帯43000人、2〜3歳のいる家庭700人、合計50000人。1冊50000円分を40000円で、1人5冊となる期間は6ヶ月ある。

意見 取るのは取って返すのなら最初から、取ら

なければいい。まるで駄々をこねる子供に鉛玉を舐めさせて黙らせるようなもの。消費税をとることが家計を苦しめることがわかりながら平気でやる今回の国のやり方は、許せるものではない。

一般質問

地方創生・地域活性化について



片瀧 清次郎 議員

質問一 若者雇用対策「第一回企業説明会」の成果は。

答弁 高校生166名と市内企業20社が参加し、アンケート結果は概ね好評だった。「鹿島の企業を知る良い機会だった」「進路選択の大事な説明会だった」等、多くの声が聞かれた。今後は、ハローワークとの連携や保護者対象の開催も検討していく。

質問二 新工場団地造成計画の進捗状況について。
答弁 谷田工場団地分譲終了に伴い、平成31年度予算に企業誘致対策事業として新規工場団地適地

調査委託料を予定している。そして県や企業誘致関係機関と連携を密にしていく。

質問三 鹿島市への移住定住の取り組みについて

答弁 浜町の移住体験施設(旧筒井家)利用の方が今年一月に移住されてこられた。東京や福岡で開催の移住フェアに鹿島市も出展し、住みやすさ、人の良さ等、「鹿島の魅力」を発信している。また、就業相談に取り組んでいる。

質問四 児童へのいじめ、親からの暴力に対する教育委員会の取り組みについて。

答弁 児童は最初にいじめアンケートで訴えている。初期対応が最も重要であり、学校や児童相談所、市福祉課、民生児童委員、警察の横のつながりを強めていく。



▲話を聞く高校生たち

質問五 防災「受援計画」について。

答弁 本年度中に災害時の「事業継続計画」や、「受援計画」を制定する。これまで、北部九州豪雨災害で被災した福岡県うきは市へ視察を行い、消防や自衛隊、警察と連携する素案作りを進めている。また、熊本地震で被災した熊本県西原村へ災害支援で職員を13名派遣し、避難所運営や、り災証明発行業務等を行っており、支援の経験が受援につながるよう努めている。また、ボランティアの方々の力にも期待している。

保険料の無料化を



松尾 征子 議員

質問一 後期高齢者医療制度の保険料を払っても十分病院へ掛かれない人が多い。

保険料はどのように変わっているのか。

答弁 2年毎の改正。均等割り4万7800円、所得割8.8%。4万9500円、9.6%、5万2800円、9.88%と変わっている。

質問二 定期的に大幅に上がっている。払う高齢者の年金は下がるばかり、保険料を無料にすること。

答弁 国の制度として確立している。知事会・市長会は国に低所得者のために保険料の上昇を更生するため財政措置などを要望している。鹿島市も市長会に要望するなどしている。

鹿島市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について



徳村 博紀 議員

質問一 新たに高校生の入院に係る医療費の補助ということで大変ありがたいことだが、中学生ま

での医療費は現物給付方式で手続き。手間がかからない。今回はなぜ保護者の手間がかかる償還払い方式にしたのか。

答弁 現物給付の方が経費が多くかかること、県内の病院間で移動があった場合、対応がしにくいという面があるため。

質問二 今後現物給付方式に切り替えて欲しいと思うがどうか。

答弁 これまでも段階的に行ってきた。これからも段階的に考えていきたい。

要望 今後は手続き上簡単な、現物給付方式を念頭において調整をして頂きたい。

保険料については今、全体の78・82%の対象者が軽減を受けている。

- ③ 支え合い
- ④ 生きがいづくり、老人会・シルバーなど
- ⑤ 医療・介護の専門機関と連携をとる。

質問三 軽減はあっても大変な事態には変わりはない。市単独の対策も執るべきだ。

質問二 これからもだが、今おかれている人をどうするかということ。ヘルパー不足。介護を受けられない人。事業所の問題など、市が独自の取り組みをすべき。今、介護度を軽くされ介護が受けられない人が出てくる。軽くなるはずがない。金をかけないためにやっているのか。

質問一 要介護認定だけで必要なサービスが受けられるという事でスタートした制度。制度が変わったこともあり、十分なサービスが受けられない。介護ヘルパー不足で事業をやめたり、縮小する事業所が生まれている。

答弁 介護を受ける人の増加が見込まれているので、① 要介護・要支援にならないように健康寿命の援助を図る。② 在宅者の生活支援。

一般質問

一般質問

地域包括ケアシステムの周知について



杉原 元博議員

質問一 市として今後どの様に取り組み、何を目指していくのか。

答弁 大きく5つの取り組みを進めていく。

質問二 認知症サポーターの数と養成講座の今年度の開催状況について聞く。

答弁 受講者は延べ3270人で、平成30年度は7回開催し、参加人数は156人。

質問三 サポーターの役割を明確にして、活躍を後押しする取り組みが必要では。

答弁 「認知症の声掛け

訓練」を実施。更に介護施設や支える方々の集まりである「認知症オレンジカフェ」も開催し、サポーターの活躍が進んでいくよう継続していく。

質問四 「地域包括ケアシステム」が浸透していくように、周知方法について聞く。

答弁 地域ケア会議や生活支援体制整備の実施、オレンジカフェやサポーター養成講座等の認知症対策を通じ周知を図る。

児童虐待について



樋口 作二議員

質問一 鹿島市の児童虐待の実態はどうか。

答弁 全国的には増加しているが、鹿島市では減少傾向である。しかし、児童相談所に保護される重篤なケースも時折発生している。

質問二 支援体制は十分か。

答弁 要保護児童対策実務者会議を中心に、市の関係部署のほか児童相談所や警察とも情報交換を行い、アンテナを張り巡らせて情報収集し、支援に当たっている。

質問三 新設される子育て総合相談センターでは児童虐待にどうかかわっていくのか。

答弁 保健センターの中に、新たに保健師と助産師を配置し、妊娠前から

子育て相談にあたり、子育て支援センターと連携して、子育て支援に取り組んでいく。

一般質問

人口減少対策について



福井 正 議員

質問三 大学駅伝合宿の状況と児童達との触れ合いについて聞く。

答弁 平成23年度から始まり今年度末で延べ53団体が合宿。うち箱根駅伝出場大学は39回、実数で12大学が合宿。

質問四 先般行われた鹿島市企業説明会の模様、参加者の声、反響等を聞く。

答弁 市内外の高校2年生166名参加。企業のプレゼンは殆どの生徒が高評価で参考になったと回答。

質問一 若者の流出の歯止め対策について。

答弁 網引き論であり、親の考えを押し付けてもいけない。必要な事は魅力ある鹿島を作っていく事。

質問二 学校の部活動やスポーツ少年団の活躍の状況について聞く。

答弁 九州や全国大会に出場し、多くの入賞もされている。毎月の市報で活躍の紹介のページを設

けており、お知らせをしていく。

カモによる食害について



稲富 雅和議員

質問 カモに食べられた後の海苔は育成不良で生産が出来なくなる。食害が増えている現状を、市はどう考え対策をするのか。

答弁 環境保全の立場で、オナガガモ、ヒドリガモによる影響が大きい。い

質問二 鹿島市の働き方

ち早く研究している福岡県水産海洋技術センター有明研究所に視察研修を行った。爆音器の設置での追い払いなど漁協、猟友会の協力をいただきながら対策を行ってきた。

質問三 カキ増産や環境改善のため、カキ礁を増やすことはできないのか。

答弁 漁業権との関係で簡単にはできない。意見 関係者の連携で是非実現してほしい。

質問四 クチゾコの漁獲状況はどうか。

答弁 アカシタピラメが中心であるが、漁獲量は年々減少している。

質問五 旬をもとにした食品はあるか。

答弁 経済効果を考え、なるべく一年を通して賞味できる食品が作られ、旬を限定した食品は少ない。

地建設の現状は。

質問四 鹿島市の工業団地建設の現状は。

答弁 4か所を選定し今後調査していく。また西牟田の御神松の空き店舗にIT農業機械企業の「いなほ」が進出された。

質問五 鹿島市の子育て支援として他市町等で取り組まれている、出産祝い金や小中学校の給食費無償化に取り組み考えは。

答弁 出産祝い金は県内の市町で取り組まれているが、それぞれの町の事情があつての取り組みと考える。鹿島市では出産時にフォトフレームをお祝いに贈呈している。また給食費無償化は約1億800万円の費用がかかり困難である。



▲完成した中村住宅

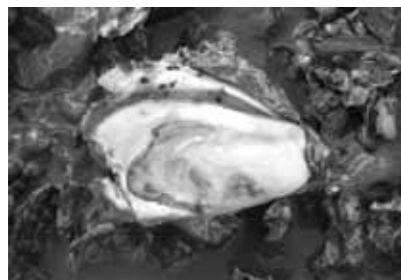
教育長の考え今後の進め方について伺います。

答弁 この3ヶ月間、市のことをまず知る。使命は思いつきで新しくすることをではなく、任された任期の中で鹿島市第六次総合計画、子ども教育大綱を具体的に実行していくこと。

教育基本法の中にある個性を尊重し確かな学力、豊かな人間性、健康な体力「知・徳・体」のバランスの取れた教育推進をしていく事が大切で、教育長として趣旨を尊重し具体的な政策を実行していく。

学力の捉え方として、基礎、技能、判断力、表現力、意欲、態度この事を混じり合わせ学力向上に向けて取り組みたい。

もう一つが教職員の資質向上。「教育は人なり」最高の教育環境は教職員集団。校長を中心に向心を持った組織となるように、職員が力を発揮できるように、教育長としてさせていただきます。



▲有明海産のカキ



総務建設環境委員会 審査報告

去る2月26日の本会議において、総務建設環境委員会に付託されました「議案第7号 鹿島市職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について」、担当職員出席のもと、2月28日に審査を行いました。その概要及び結果について報告します。

条例制定の理由としては、地方公務員法に基づき、職員の仕事と家庭生活の両立を支援するため、配偶者同行休業制度を設けたいので、条例を制定する。

「配偶者同行休業制度」とは、継続的な勤務を促進するため、「外国で勤務等をする配偶者とその地で生活を共にできる休業制度」として、平成25年日本再興戦略及び平成25年人事院勧告を踏まえて、公務員に係る法整備がなされた。

国において、日本再興戦略が設けられているが、その中に、女性の採用・登用の促進や男女の仕事と子育て等の両立支援について、先ずは公務員から率先して取り組むべきことが掲載されている。その対策のひとつとして、配偶者の転勤に伴う離職への対応ということがある。地方公務員法に基づき、配偶者同行休業の条例を制定することで、職員の仕事と家庭生活の両立を支援する、環境を整備する制度である。

条例は、平成31年4月1日からの施行を予定している。

第1条は、趣旨の規定。

第2条は、承認することができる条件の規定。

第3条は、休業の上限期間を3年とする規定。

第4条は、休業の対象となる、配偶者の外国滞在の事由の規定。

第5条は、休業の承認申請にあたり、休業期間・配偶者の外国滞在の事由を明確にしなければならないこととの規定。

第6条は、休業の期間の延長の規定。

第7条は、休業の期間の再度の延長ができる特別な事情の規定。

第8条は、休業承認の取消事由の規定。

第9条は、休業をしている職員に届出を義務付ける事項の規定。

第10条は、休業をする職員の代替として、任期付採用又は臨時的任用により職員を採用することができることとの規定。

第11条は、休業した職員が職務に復帰した場合、その給料月額を調整できる規定。

第12条は、退職手当を計算する際の在職期間から、休業をした期間を除算する規定。

第13条は、休業制度の運用にあたり、申請手続き等必要な事項は規則で定める規定。

以上の質疑、答弁の後、採決した結果、議案第7号 鹿島市職員の配偶者同行休業に関する条例の制定については、総務建設環境委員会において、起立全員で提案のとおり可決すべきものと決しました。

新年度予算審査特別委員会 審査報告

平成31年2月26日の本会議において付託された下記6議案については、3月4日に現地調査、並びに同月5日、7日、8日、11日及び12日に質疑審査を行った。

審査の結果は、下記全議案について、原案のとおり可決すべきものと決した。

以上、会議規則第98条の規定により報告する。

記

- 議案第 1号 平成31年度鹿島市一般会計予算について
- 議案第 2号 平成31年度鹿島市公共下水道事業特別会計予算について
- 議案第 3号 平成31年度鹿島市国民健康保険特別会計予算について
- 議案第 4号 平成31年度鹿島市後期高齢者医療特別会計予算について
- 議案第 5号 平成31年度鹿島市給与管理特別会計予算について
- 議案第 6号 平成31年度鹿島市水道事業会計予算について

新年度予算審査特別委員会

委員長 伊東 茂
副委員長 勝屋 弘貞

鹿島市の地域課題と対策について



松田 義太 議員

少子高齢化社会に向けた取り組みについて

質問一 平成30年4月1日現在、鹿島市の高齢化率は30・9%、9158人、75歳以上の後期高齢化率は、16・4%、4865人、一人暮らしの高齢者の世帯数は1252世帯となっている。今後医療、介護、介護予防、生活支援など地域包括ケアシステムを推進していくためには、地域、地元医療機関、介護事業者との連携が重要になってくるが、市はどのような対策を講じていくのか。

答弁 生活支援体制事業は、社会福祉協議会へ委託をしている。各関係機関等と、定期的に情報交換を行い地域包括ケアシ

システムの構築に向け取り組んでいる。

質問二 佐賀県は、介護現場の将来を担う若者を応援するために、平成31年度から介護資格取得を目指す高校生の実習経費の負担をなくす取り組みをされる。市内には鹿島看護学校があり、今後の医療現場の将来を見据えた時、人材育成の面から様々な支援が考えられるのではないかと。

答弁 現在も鹿島看護学校に補助金等の支援を行っているが、今後どのような支援が出来るのか検討したい。

質問三 当市の人口は、平成29年に3万人を割り込み、平成30年4月現在2万9591人となり、人口減少が加速している。雇用の場の確保が緊急の課題であり、市内の中小企業支援に努めてもらいたい。

答弁 市が独自に助成している親元就農者への支

議案第1号 反対討論

松尾 征子 議員

消費税が10%に増税されると家計を直撃し、消費不況をさらに深刻にするといわれている。

全国的にも増税反対の運動は大きく広がっている。「増税の影響緩和」をすると言う政府の景気対策は異常なものである。「目玉のポイント還元」は食料品を8%に据え置く複数税率とセットになるといわれる。買う場所、買う品物、買う方によって税率が5段階にもなる。市民生活は勿論、消費税免除事業者にも新たな負担をもたらすといわれる。国の指示とはいつても10月から導入とされる消費税を当初から反映させることは、鹿島市が消費税増税に賛同したということになる。

よって議案第1号平成31年度鹿島市一般会計予算に反対する。



議案第1号 賛成討論

福井 正 議員

平成31年度鹿島市一般会計予算に対し、賛成の立場で討論します。

一般会計は、歳入歳出139億6100万円であり、後年度負担や、中長期的に持続可能な財政運営を目指し、定住促進や子育て支援等、地域創生実現に向けた予算編成となっている。

また、ふるさと納税は6億円と倍増である。小学校大規模改造整備事業、保育所整備事業、市民会館建設事業の取り組みも始まる予算であり、保育・教育・街づくりに配慮した予算だと思ふ。

よって議案第1号平成31年度鹿島市一般会計予算に賛成する。



地方創生対策特別委員会 最終報告

鹿島市議会地方創生対策特別委員会は、地方創生に関する鹿島市行政の様々な取り組みを補完・推進することを目的に平成27年6月議会において設置された。

最初の取り組みは、鹿島市の課題を知るために子育て世代へのアンケートを実施し、様々な子育てへの考えや要望を聞くことができ、大変参考になった。

地方創生の課題を知るための学習会は二度行った。最初は佐賀県さが創生推進課で佐賀県の方針を学び、二回目は、内閣府より鹿島市に地方創生担当理事として赴任された企画財政課納塚理事と、鹿島市の現状と今後の方向性を話し合った。

中小企業支援では、大村市産業支援センター、天草市起業創業中小企業支援センター、かしまビジネスサポートセンターを訪問した。いずれも新たなビジネスの成功に高い成果を上げておられた。

町おこしでは、佐世保市の四ヶ町商店街、人吉市のさき馬スタンプ組合を訪ねた。いずれも商店街を何とか活性化しようと知恵と連携で地域を盛り上げている現状と心意気を感じられる取り組みだった。

行政視察は、沖縄県を除く九州各県の地方都市を訪問し、その先進的な取り組みを学んだ。印象に残っているのは、まず宮崎県延岡市と大分県佐伯市の食の連携バスケ化構想である。これは県という行政区を超えた取り組みで、斬新的なアイデアだと思った。

長崎県南島原市の南島原食堂は、廃校となった校舎を利用して開設され、料理も素晴らしく、営業日には大賑わいとこのことで、限界集落を活性化しようと市がアイデアを出して成功している点が印象的だった。

さらに鹿児島県出水市は、移住・定住に関する支援策・補助金が高く、定住だけでも3年間で118件の契約が成立し、また、農家民泊への取り組みも積極的で、120件が登録、毎年修学旅行生3,000人を受け入れているとのことで、鹿島市も頑張らなければと思った。

以上が活動の報告だが、まず鹿島市民のだれもが鹿島市に愛着を持っていることを肝に銘じて取り組まなければならないこと、訪問した各市、各団体とも高い熱意をもって地域の活性化を目指しており、鹿島市もより高い熱意とリーダーシップで地方創生に取り組まなければならないと思った。

以上報告する。



鹿島市議会地方創生対策特別委員会

委員長 樋口 作二 副委員長 杉原 元博
委員 稲富 雅和 松本 末治 光武 学 福井 正
オブザーバー (議長) 松尾 勝利



▲天草市起業創業中小企業支援センター

佐賀県後期高齢者医療広域連合議会 2月定例会報告

去る2月15日に定例議会が開催され、平成31年度一般会計及び後期高齢者医療特別会計の歳入歳出予算(案)、後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例等が全会一致で可決された。

平成31年度の特別会計歳入歳出予算総額は1,253億446万5千円、前年度当初予算比19億439万1千円(1.5%)の増となっている。

平均被保険者数は、約12万5,000人(0.97%増)、一人当たり医療給付費は約99万1千円(0.66%増)を見込み、医療給付費総額は1.64%増の1,239億6,322万2千円を計上した。

31年度の保険料率は、均等割51,800円、所得割率9.88%、年間保険料の上限は62万円であり、30年度と同じ。

今回の条例改正で、低所得者の5割軽減、2割軽減の保険料率軽減基準が引き上げ拡充された。

また、保険料軽減特例制度が平成31年10月に廃止され、9割軽減及び8割軽減ともに本則の7割軽減となる。

なお、8.5割軽減については、年金生活支援給付等を受けないため1年間据え置かれている。

佐賀県後期高齢者医療広域連合議会議員 角田 一美

まちづくり推進構想対策特別委員会 最終報告

これまで4年間にわたり当委員会にて調査研究をしてきた内容を報告する。

平成27年6月12日の本会議において、まちづくり推進構想対策特別委員会を設置する案が提出され、徳村博紀議員が委員長に、勝屋弘貞議員が副委員長に推薦され決定した。またオブザーバーとして前半2年は光武学議員、後半2年は角田一美議員が参加した。当委員会の主な目的は、鹿島駅前周辺整備・新世紀センター・市民会館建設・市営住宅等の大型案件を主体に調査研究することで、市民生活をよりよいものにしていくということである。

まず視察研修は、H27年11月16日からH28年6月28日までの3件の視察については平成29年3月、すでに中間報告にて説明をしているので省略する。この後の視察研修は1件で、H29年7月10日(月)～12日(水)の3日間、岡山県真庭市、2016年に木材利用優良施設表彰「農林水産大臣賞」を受賞した真庭市落合総合センター。島根県安来市、2010公共建築協会木造の公共建築賞を受賞した安来節演芸館。鳥取県境港市、賑わいを創出するまちづくり水木しげるロードについて視察研修をした。ここでは鹿島市民会館の建替に際し、市の財源や国の補助金等の制約の中で、木造建築を参考とするため、最新の技術を終結した木造施設を視察研修したが、真庭市及び安来市においても地元の木材を大量に使用しており大変参考になった。また境港市は、妖怪をモチーフにしたまちづくりに取り組まんでおり、家族連れや若者をターゲットにした観光で賑わいを作り出し成功しており、観光客の増加に伴い、駅近くに近代的な新しいホテルも建っていた。



▲真庭市落合総合センター



次に委員協議会については、計8回開催し、付託された案件について協議を行った。

次に意見交換会については、計3回、市民会館建設検討委員会・市執行部と意見交換会を行った。

市民会館建設については、当委員会での要望を伝え、会場の広さや客席数の設計に反映して頂いた。その後、設計業者選定のプロポーザル、プレゼンテーション・ヒヤリングが行われ、東京都の有限会社ナスカが設計をすることに決定した。今後の建設予定は2019年7月から解体が始まり、2020年1月から建築工事に着手、建築完了が2021年10月となっている。

そのほかの主な事業に、鹿島市中村住宅整備事業・鹿島駅前周辺整備事業があるが、鹿島市中村住宅整備事業はPFI事業により北鹿島地区の旧警察署跡地に公営住宅20戸・定住促進住宅20戸が整備され、市外からの入居者は18世帯50人となり、H31年3月の入居開始当初は共に満室となっている。またH31年2月27日には完成披露会が行われた。駅前周辺整備に関しては、鹿島市商工会議所からの提言を受け一度リセットしてしっかりとこれからのまちづくりにあったプランを考えていこうということになった。

まだ大きな案件として市民会館建設・駅前周辺整備が残っているが、次の新体制に引き継がれてしっかりと議論がなされることを期待して、まちづくり推進構想対策特別委員会の最終報告とする。

鹿島市議会まちづくり推進構想対策特別委員会

委員長 徳村 博紀 副委員長 勝屋 弘貞
委員 片淵 清次郎 中村 和典 松田 義太 伊東 茂 松尾 征子
オブザーバー (副議長) 角田 一美

議会あれこれ

(平成31年1月～3月)

1月

- 10日 議会だより編集委員会
- 15日 鹿島市農業再生協議会臨時総会
- 17日 議会だより編集委員会
- 18日 佐賀県市議会議長会
- 22日 杵藤地区広域市町村圏組合議会 1月臨時会
議会だより編集委員会
- 23日 全員協議会
地方創生対策特別委員協議会

2月

- 4日 議会運営委員会
- 7日 全国広域連携市議会協議会総会
- 8日 全員協議会
総務建設環境委員協議会
文教厚生産業委員協議会
- 14日 鹿島・藤津地区衛生施設組合議会 2月定例会
杵藤地区広域市町村圏組合議会 事前勉強会
- 15日 後期高齢者医療広域連合議会 定例会
- 18日 議会運営委員会
- 20日 3月定例会 開会 議案の上程(～3月22日)
全員協議会
国道498号整備促進期成会の提案活動(佐賀県)
- 22日 杵藤地区広域市町村圏組合議会 2月定例会開会
- 26日 3月定例会 議案審議 質疑、討論、採決
- 28日 総務建設環境委員会
西部広域環境組合議会 定例会

3月

- 4日 新年度予算審査特別委員会(～3月12日)
- 11日 まちづくり推進構想対策特別委員会
- 12日 議会運営委員会
- 14日 3月定例会 一般質問(～3月15日)

3月

- 18日 議会運営委員会
全員協議会
3月定例会 一般質問
全員協議会
- 22日 全員協議会
3月定例会
委員長報告、議案審議、質疑、討論、採決、閉会
- 27日 杵藤地区広域市町村圏組合議会 2月定例会閉会
- 29日 議会だより編集委員会

行政視察受入状況

(平成平成31年1月～3月)

1月23日 兵庫県朝来市議会 10名

1月30日 岩手県八幡平市議会 10名

1月31日 宮城県議会 12名

2月 6日 山梨県山梨市議会 7名

議長交際費を公表します。

金額単位：円

区分	1月		2月		3月		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
弔慰	0	0	0	0	0	0	0	0
見舞い	0	0	0	0	0	0	0	0
祝儀	1	16,200	0	0	0	0	1	16,200
会費	2	9,000	2	10,000	2	8,000	6	27,000
接遇	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	25,200	2	10,000	2	8,000	7	43,200



顧問 角田 一博
委員 徳村 和典
副委員長 中村 弘真
委員長 勝屋 勝典

※この議会だよりは、全て原稿提出者の責任により編集されています。

「令和」～人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。～
心ですとんと落ちる納得のいく新年号だと感じました。今回の発行は平成の御代の最後、また、我々の任期最後の仕事となり、少しでも議会のこと、が身近に感じて頂けたかどうか・・・。
限られたページ数の中、議会を少しでも身近に感じてもらえたらと工夫して作ってきました。新しく議員になられる方々にこの思いを託し、この時期に「かしま議会だより」の編集に関われたことに感謝申し上げます。

編集後記